

臨床の引き出しを増やすオムニクロマフローシリーズ

歯科佐藤 横浜鶴見 院長

鶴見大学歯学部口腔リハビリテーション補綴学講座 臨床教授 佐藤 洋平先生

シェード選択なく使用しても幅広い色調に適合するオムニクロマを便利に使用されている先生は多いだろう。近年ではペーストタイプ以外にフロータイプのオムニクロマフロー、同タイプのオムニクロマフロブロッカー、オムニクロマフローバルクとラインナップが増えている。それぞれのタイプを生かした臨床例を供覧する。



CASE 1 : オムニクロマフロー

56歳の男性。下顎インプラントオーバーデンチャー人工歯の破折を主訴に急患来院した。左下の1番の人工歯がチップングしている（図1）。対合もインプラントオーバーデンチャーのため強い咬合力と前歯での咬断が原因と考えられる。人工歯の置換も考慮したが、患者も仕事の合間にいらしており、チェアタイムにも制限があった。そこで破折した面に軽圧でサンドブラストしたのちにボンドマー ライトレスⅡで処理して、オム

ニクロマフローで人工歯形態を回復した（図2-4）。形態修正、研磨すると修理の跡が殆どわからないほどシェードも適合している（図5）。

硬質レジン歯は種類によって複雑な多層構造をしており各層との最適な接着処理を考慮するのは難しいものがある。接着する対象への制限が少ないボンドマー ライトレスⅡの応用は有用と考える。



図1 術前の義歯写真。人工歯がチップしている。



図2 ボンドマー ライトレスⅡを塗布してエアブロー。



図3 オムニクロマフローによる充填。



図4 光重合直後。



図5 形態修正研磨後。修理した部位は目立たない。

CASE 2 : オムニクロマフローバルク

33歳の女性。右下6番のインレーが脱離して来院した(図6)。感染歯質を除去した後にマトリックスを適合させた。ボンドマー ライトレスⅡの処理後、重合収縮が少ない利点を生かしてオムニクロマフローバルクを用いて一回の填入で重合を終え

た(図7、8)。フローのみで充填しているため、咬合面の形態修正は必要だが、短時間で簡便に修復ができた。

色調についても患者の高い満足が得られた(図9)。



図6 インレーが脱離した初診時。



図7 マトリックス適合後にボンドマー ライトレスⅡを塗布。



図8 オムニクロマフローバルクによる充填後。



図9 形態修正、研磨後。

CASE 3 : オムニクロマフローブロッカー / オムニクロマフロー

42歳の女性。インレー脱離を主訴に来院。う蝕検知液を使用しながら慎重に感染歯質を除去した(図10)。窩底は褐色であるが、検知液に染まらない層となった。ボンドマー ライト

レスⅡ処理後にオムニクロマフローブロッカーで下層の色調を遮蔽した(図11、12)。表層はオムニクロマフローで充填後仕上げ研磨をした(図13、14)。



図10 感染歯質除去後。窩底は褐色を呈している。



図11 ボンドマー ライトレスⅡの塗布。



図12 オムニクロマフローブロッカーで変色を遮蔽。



図13-a オムニクロマフローによる表層の充填。



図13-b 充填部位の拡大図。



図14 仕上げ研磨後の口腔内写真。

まとめ

オムニクロマフローシリーズによるシェード選択からの解放と、ボンドマー ライトレスⅡによる被着体ごとの接着方法選

択からの解放はチェアタイムに余裕をもたらす。臨床の引き出しを増やしてくれる材料だと感じている。

株式会社 トクヤマデンタル

本社 〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9

お問い合わせ・資料請求
インフォメーションサービス

0120-54-1182

受付時間
9:00~12:00/13:00~17:00
(土日祝日を除く)

オムニクロマ
特設サイトは
こちら

